

銀行

1. 評価対象企業（13社）

しずおかフィナンシャルグループ（注）、めぶきフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、コンコルディア・フィナンシャルグループ、あおぞら銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、セブン銀行、みずほフィナンシャルグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）静岡銀行が、株式移転により持株会社に移行した（2022年10月）。

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	6	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	13
計		21	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は124頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは23名（所属先22社）である。（氏名等は125頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は123頁参照）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連をESG関連に名称変更し、同分野を中心に項目数、内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は75.0点（昨年度75.6点）、総合評価点の標準偏差は、6.2点（昨年度同点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、経営陣のIR姿勢等が77%（昨年度75%）、説明会等が79%（昨年度77%）、フェア・ディスクロージャーが85%（昨年度83%）、ESG関連が70%（昨年度75%）、自主的な情報開示が68%（昨年度69%）となった。
- ③ 評価項目（21項目）について見ると、次の7項目が平均得点率で80%以上となり、高い水準となった。7項目の内訳を見ると、説明会等の中の4項目（(c) (d) (f) (g)）およびフェア・ディスクロージャーの3項目（(a) (b) (e)）であった。

(a)「経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重

- 要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率 89% [昨年度 95%]) (得点率 (評価点/配点<以下省略>) : 80%1社・85%4社・90%5社・95%3社))
- (b)「ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供(説明会、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ)を行っていますか」(平均得点率 84% [昨年度 76%]) (得点率 : 70%台 2社・80%台 8社・90%台 3社)
- (c)「第1四半期、第3四半期の開示資料の内容は適切ですか」(平均得点率 84% [昨年度 83%]) (得点率 : 70%台 2社・80%台 8社・90%台 3社)
- (d)「決算発表および説明会は迅速に行われていますか」(平均得点率 83% [昨年度同率]) (得点率 : 70%台 5社・80%台 5社・90%台 3社)
- (e)「英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか」(平均得点率 83% [昨年度 82%]) (得点率 : 70%台 3社・80%台 7社・90%台 3社)
- (f)「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか」(平均得点率 83% [昨年度 81%]) (得点率 : 70%台 3社・80%台 7社・90%台 3社)
- (g)「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(規制変更の影響など自主的開示を含む)が十分になされていますか」(平均得点率 82% [昨年度同率]) (得点率 : 70%台 6社・80%台 4社・90%台 3社)
- ④ **ESG 関連**の6項目は、次のとおりとなった。(b) (e) (f)は、本年度の新設項目)。なお、(f)については、平均得点率が50%台となり、全21項目の中で最も低くなった。
- (a)「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 79% [昨年度 77%]) (得点率 : 70%台 7社・80%台 5社・90%台 1社)
- (b)「社外取締役の関与について、十分な説明がなされていますか」(平均得点率 64%) (得点率 : 40%台 1社・50%台 4社・60%台 4社・70%台 3社・80%台 1社)
- (c)「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 74% [昨年度 77%]) (得点率 : 60%台 4社・70%台 7社・80%台 1社・90%台 1社)
- (d)「中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 72% [昨年度同率]) (得点率 : 60%台 6社・70%台 5社・80%台 2社)
- (e)「E(環境)・S(社会)に関するKPIを含む情報開示は十分になされていますか」(平均得点率 71%) (得点率 : 60%台 7社・70%台 3社・80%台 3社)
- (f)「ESG 関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか」(平均得点率 59%) (得点率 : 30%台 2社・40%台 4社・60%台 3社・70%台 1社・80%台 3社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三菱UFJフィナンシャル・グループ (ディスクロージャー優良企業(8回目)、総合評価点 86.6点 [昨年度比+2.1点]、昨年度第2位)

- ① 同社は、5分野全てにおいて第1位となった。具体的には、**経営陣のIR姿勢等**(得点率<以下省略>89%)、**ESG 関連**(86%)、**自主的情報開示**(86%)が第1位、**説明会等**(85%)、**フェア・ディスクロージャー**(89%)が同得点第1位となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」および「IR部門の機能・姿勢」が共に、最も高い評価となり、「IRの基本スタンス」も、同得点第1位となった。これらに関連して、経営トップが決算説明会や統合報告書等において経営方針を十分に説明しているとの声や、経営陣のIR姿勢が積極的であり、投資家目線を強く意識しているとの声が寄せられた。IR部門については、必要な情報が集積されていることや、経営陣との連携の良さを評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」および「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が共に、最も高い評価となった。また、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)」および「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連

した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」も共に、同得点第1位となった。これらに関連して、説明会の配布資料が充実しているとの声や、事業買収・売却や地政学リスクなどの事象に関する、開示資料の迅速な公表や説明会の適時の開催を評価する声が寄せられた。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」および「英文による情報提供」が共に、同得点第1位となった。これらに関連して、ウェブや電話会議などのリモートツールによる開示、英語での開示が充実しているとの声が寄せられた。また、決算説明会における説明や質疑応答が開示されている点を評価する声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、6項目全てが、第1位または同得点第1位となった。特に、「資本政策、株主還元策の開示」および「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」は共に、90%以上の得点率となった。これらに関連して、資本政策（必要資本、資本配賦の方針、株主還元等）が明確に示されているとの声や、プログレスレポートにおいてカーボンニュートラルの取組みの進捗状況がわかりやくまとめられているとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目全てが、最も高い評価となった。そのうちの、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」は、90%以上の得点率となった。これらに関連して、IR Day、カーボンニュートラル実現への取組みに関する説明会、社外取締役とのミーティングなどを評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 三井住友フィナンシャルグループ（総合評価点 82.7点〔昨年度比-2.7点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（84%）、**ESG 関連**（81%）、**自主的情報開示**（82%）が第2位、**説明会等**（83%）、**フェア・ディスクロージャー**（87%）が第3位となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」（第2位）および「IR部門の機能・姿勢」（第2位）が共に、高い評価となった。そのうちの、「IR部門の機能・姿勢」は、昨年度に比べ得点率が改善し、90%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップのIR姿勢が前向きであり、決算説明会や統合報告書等で経営方針を十分に説明しているとの声が寄せられた。IR部門については、十分な情報が集約されており、有益な対話ができるとの声があった。なお、子会社の不祥事に関する投資家への情報発信が弱いとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」が、同得点第1位となった。また、「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」（同得点第2位）が評価され、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」も、同得点第2位となった。これらに関連して、説明資料の内容には定性的な説明も織り込まれており、業績やリスクについてわかりやすいとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が、同得点第1位となった。また、「英文による情報提供」（同得点第4位）は、85%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会をハイブリッド形式で開催しており評価できるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「E（環境）・S（社会）に関するKPIを含む情報開示が十分になされていること」が、同得点第1位となった。「ESG 関連の説明会を開催していること。また、それが充実していること」（第2位）および「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」（同得点第2位）も共に、高い評価となった。これらに関連して、ESG説明会の定期的な開催を評価する声があった。なお、政策保有株式について、ROE目標と整合する定量的な説明を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目全てが第2位となったが、いずれの項目も、昨年度に比べ得点率が下がった。なお、IR Day、成長投資・資本政策に関するスモールミーティングを評価する声が多く寄せられた。

第3位 三井住友トラスト・ホールディングス（総合評価点 80.2 点〔昨年度比-0.1 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、説明会等が同得点第1位（85%）、ESG 関連が第4位（77%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第4位（86%）、自主的情報開示が第5位（75%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第5位（79%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能・姿勢」が、昨年度に比べ得点率を改善し、85%以上となった。これに関連して、IR 部門の対応が真摯であることや、必要な情報が集約され、有益な対話ができることを評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータが、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」および「第1四半期、第3四半期の開示内容が適切であること」が共に、最も高い評価となった。また、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）」および「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的开示を含む）」が十分になされていること」が共に、同得点第1位となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、説明資料が詳細でありかつ見やすい、決算同時配布資料では説明に工夫が見られるとの声や、四半期決算の開示データを評価する声が寄せられた。なお、セグメント別 ROE の前提となる数値の開示を今後も期待するとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」および「英文による情報提供」が共に、同得点第4位となり、85%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会における説明や質疑応答が開示されている点の評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」（同得点第2位）が、高い評価となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」および「目標とする経営指標等」が共に、同得点第3位となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」が、昨年度に比べ得点率を改善した。これに関連して、IR Day、気候変動への取組み等に関するセミナーを評価する声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
			評価項目3 (配点 20点)		評価項目7 (配点 32点)		評価項目3 (配点 7点)		評価項目6 (配点 28点)		評価項目2 (配点 13点)		
1	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	86.6	17.8	1	27.2	1	6.2	1	24.2	1	11.2	1	2
2	8316 三井住友フィナンシャルグループ	82.7	16.8	2	26.4	3	6.1	3	22.8	2	10.6	2	1
3	8309 三井住友トラスト・ホールディングス	80.2	15.7	5	27.2	1	6.0	4	21.6	4	9.7	5	4
4	8411 みずほフィナンシャルグループ	79.8	15.7	5	25.8	6	6.2	1	22.1	3	10.0	3	3
5	8331 千葉銀行	78.9	16.7	3	26.2	4	6.0	4	20.1	5	9.9	4	5
6	8308 りそなホールディングス	75.6	15.8	4	25.7	7	5.8	10	19.1	6	9.2	6	6
7	8410 セブン銀行	73.4	15.4	7	26.1	5	6.0	4	17.9	9	8.0	9	9
8	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	72.0	14.7	9	24.9	8	6.0	4	18.3	8	8.1	8	12
9	7182 ゆうちょ銀行	71.5	14.7	9	23.8	11	5.8	10	18.7	7	8.5	7	14
10	5831 しずおかフィナンシャルグループ	70.0	14.8	8	24.7	9	5.9	9	17.3	11	7.3	12	8
11	7167 めぶきフィナンシャルグループ	68.0	14.0	12	23.8	11	5.6	12	16.9	12	7.7	11	13
12	8304 あおぞら銀行	67.9	14.2	11	23.6	13	6.0	4	17.4	10	6.7	13	11
12	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	67.9	13.7	13	23.9	10	5.6	12	16.8	13	7.9	10	10
	評価対象企業平均点	74.98	15.38		25.33		5.95		19.49		8.83		

2022年度評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（20点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（32点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
④自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていますか。	4
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	4
②第1四半期、第3四半期の開示内容は適切ですか。	3
(3)決算発表	
・決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。	3
(3)英文による情報提供	
・英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（28点）	配点
(1)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
②社外取締役の関与について、十分な説明がされていますか。	4
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(4)E（環境）・S（社会）に関する情報開示	
①E（環境）・S（社会）に関するKPIを含む情報開示は十分になされていますか。	5
②ESG関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していますか。また、その際の実説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	7

銀行専門部会委員

部会長	高井 晃	大和証券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI証券
	高宮 健	野村証券
	西原 里江	JPモルガン証券
	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（23名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	丹羽 孝一	シティグループ証券
今井 雅	アセットマネジメント One	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
佐藤 雅彦	SMBC日興証券	伴 英康	ジェフリース証券会社 東京支店
佐野 滉介	第一生命保険	終 宏二	QUICK
鮫島 豊喜	SBI証券	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
柴崎 正人	三井住友トラスト・アセットマネジメント	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
高井 晃	大和証券	松野 真央樹	みずほ証券
高宮 健	野村証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	森本 章	極東証券経済研究所
永本 成克	MU投資顧問	矢野 貴裕	大和証券
西原 里江	JPモルガン証券	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
西村 英一郎	野村アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。